

ゆ

と

り

特集 歴史の舞台を行く

150日 年米修好通商条約

佐倉藩主
堀田正睦と佐倉

私鉄沿線スケッチの旅

車窓を彩る

房総の渓谷美

小湊鐵道



グラフィックインタビュー

俳優・**永島敏行さん**

2008年
秋冬号
No.51

京葉銀行

娘の死をいたむ 学僧たちの哀歌

全

国で歌われる「おいとこ節」
の発祥地は千葉県芝山町です。「白樹粉屋おどり」が元

歌で、百八十年も前の天保年間から歌
い踊り継がれています。

歌詞は、器量よしで白樹地区でも評

判の粉屋の娘になりたいと訴えて
います。諸説はありますが、日蓮宗の

中村檀林（香取郡多古町・日本寺）や

飯高檀林（匝瑳市・飯高寺）に学ぶ若

白樹粉屋おどり

ぼくそな祭時記



【Memo】

◆白樹粉屋おどり 昭和43年に県無形民俗文化財に指定され、地元保存会（代表者・木内昭博氏）のメンバーによって継承。踊り手は全員女性で、男役と女役が5人ずつ前後2列に並び、歌い手1人に太鼓1人、四ツ竹2人、笛1人の伴奏に合わせて踊ります。毎年11月第2日曜日の「芝山はにわ祭」（芝山公園）と同時に開催の「文化祭」で披露されます。

◆交通 ①芝山鉄道「芝山千代田駅」から芝山ふれあいバス24分 ②JR総武線「松尾駅」から同バスで14分。

【お問い合わせ】

芝山町産業経済課商工観光係
☎0479-77-3919
<http://www.town.shibayama.lg.jp>

娘の名前は、粉屋の三人娘の長女で
木内久子といい、地区の木内家墓所に
「容顔院妙歌日詠」と刻まれた小さな
墓石がひつそりとたたずんでいます。

娘の名前は、粉屋の三人娘の長女で
木内久子といい、地区の木内家墓所に
「容顔院妙歌日詠」と刻まれた小さな
墓石がひつそりとたたずんでいます。

2 ぼうそく祭時記

◇白糸粉屋おどり「娘の死をいたむ学僧たちの哀歌」

4 グラフィックインタビュー

俳優・永島敏行さん



7 書の風景

伊藤左千夫の掛軸「獨居愛松」(山武市歴史民族資料館)

8 ふるさと味紀行「九十九里の風。鯛のつみれ汁」

九十九里町婦人会

9 小説風土記

井上ひさし 直木賞を受賞した市川時代

文・中谷順子(詩人・日本文藝家協会会員)

10 情報Capsule

昭和30年代の町並み再現「総泉病院」(千葉市)

公園で一緒に体操や歌遊び「出前保育」(我孫子市)

平成の名水百選に「生きた水・久留里」(君津市)ほか

12 特集

歴史の舞台を行く

日米修好通商条約150年

—老中堀田正睦と城下町・佐倉

文・外山信司(県立浦安南高等学校教諭・佐倉市史編さん委員)

十一万石の城下町・佐倉の見どころ

18 私鉄沿線スケッチの旅

車窓を彩る房総の渓谷美 小湊鐵道 スケッチ・本橋尚徳

旅は道づれ「名物にうまいものあり」

22 健康エクササイズ ◇ヨガで身も心も美しく

文・長谷川幸子(国際ヨガ協会本部副理事長・九十九里支部長)

24 スポーツドクター ◇テニスの怪我と予防法

文・落合信靖(千葉大学医学研究院整形外科 助教)

25 生活習慣病と食事 ◇便秘の予防と食事

社団法人千葉県栄養士会 伊藤輝代(管理栄養士)

26 おとのんの休日 谷井真友美さん(市原市)

妥協許さぬ人形作り 磁器人形製作の第一人者

28 オープンカレッジ 俳句／川柳／短歌

選者●俳句 名取里美 川柳 平井吾風 短歌 秋葉四郎

31 おもしろ工場体験記

TEPCO新エネルギーパーク

京葉銀行の税務相談会

表紙スケッチ：本橋尚徳



資料・写真提供：芝山町教育委員会・同秘書広報課



兼業サラリーマンのすすめ

群れて遊んだ子供時代

——千葉市出身ということですから海へはよく行かれたのでしょうか。

永島 子供の頃はもっぱら東京湾で遊んでいました。波のある外房の海も好きで、よく出かけて行きました。

子供時代は、みんなそうなんですよね。遊んでばかりいて。子供は遊ぶのが仕事ですし、昭和30年代のことですから、群れて遊んでいました。夏は海、冬は海釣り。テレビが家庭に入ってきた時期ですし、また長嶋茂雄さんがいたこともあり野球が盛んでした。長嶋さんはスター選手で、子供の夢を叶えてくれそうな大きな力がありました。

——野球を始めたキッカケは、長嶋さんの影響ですか。

永島 そうです。サッカーも今ほど盛んではなく、僕らがやるとすれば相撲か野球だけでした。

——千葉には幾つまで。

永島 18歳まで。大学が東京ですから家からも通えただけで、野球の練習で夜は遅く朝が早いので下宿しました。

親の勧めでオーディション
——「ドカベン」の映画は卒業直前でしたか。

永島 大学2年の時、突然オーディションに受かったので芸能界に入りました。親が遊び半分でオーディションに行け、と勧めるので。

それに親が旅館をやつていて昼間は暇なので、よく映画を見に連れて行かれました。当時、千葉には映画館が10軒くらいあり、よく映画を見ていた記憶があります。中学になつてからは野球をするか映画を見るか、どっちかでした。勉強はほんの少しだけ（笑）。

——俳優になる気持ちや憧れは。

永島 全然。オーディションに受かるまで、これっぽっちもありませんでした。学芸会に出たこともないし……。

——俳優デビューも野球に関係していますよね。

永島 野球はそんなにうまくなかっただけど、縁がありました。それに子供の頃から映画をよく見ていたことが役立っているかもしれません。フランス映画からロシア映画、アメリカ映画など、いろんなジャンルの映画を見ました。イタリア映画は好きで、ピエトロ・ジエルミ監督の「鉄道員」には感動しました。田舎の土地に生きる庶民の喜怒哀楽、考え方にはイタリア人も日本人も変わらないと思いましたね。

の人生に役立っていますか。

永島 大学の友達と一緒に農業ができることは大きな収穫ですが、部活には非常に理不尽な厳しさがあり、大学の野球部で理不尽さを教えられました。社会に出れば、もっと理不尽でですけど……。野球よりも、親元を離れて生活していたことが役立ったと思います。

——映画デビューの「ドカベン」に次

グラフィックインタビュー

島敏行

ながしまとしゆき

千葉市出身。千葉市立高等学校から専修大学。大学2年の時オーディションに合格し、1977（昭和52）年に映画「ドカベン」でデビュー。翌年に映画「サード」（東陽一監督）で新人賞。1981年、映画「遠雷」（根岸吉太郎監督）で日本の映画賞を総なめ。以後、テレビ、ラジオ、舞台に大活躍。自給自足の会を設立し農業に取り組む。今年8月、千葉市のシティーセールスセンターに委嘱。

インタビュアー・一瀬友里

フリーランサー。千葉テレビのニュース番組「C-master」（月～金21:00～）など、多数局の番組担当。



市立千葉高等学校時代（野球部に所属）

いで1978年に「サード」（東陽監督）で新人賞。1981年の「遠雷」（根岸吉太郎監督）では日本の映画賞を総なめです。その後もテレビやラジオ、舞台と活躍の場を広げられている一方、農業コンサルタントとしても力を入れていますよね。

永島 僕は役者なので農業を生業にはできないけど、役者という仕事を通して多くの人に農業を知つてもらい、農家と市民とのつなぎ役をしたい。昔の旅芸人のように、民衆に芝居を見せて楽しめると同時に各地の情報を伝達する。役者も同じで、なかなか届かない民衆の声を届けるのが仕事です。

農業とのかかわりは映画祭

——そもそも農業をはじめられたきっかけは何ですか。

永島 大学野球部の友達が役人で、横手市十文字町に映画館がなく、地域の人たちに映画を見せてあげたい、と19年前に始めたのが「あきた十文字映画祭」です。ただ映画祭では、どうしても僕ら映画関係者が主役になってしまいがちです。十文字の人たちが主役になれるものはないかと考え、そうだ米作りを教えてもらおう、と始めたのが農業にかかるキッカケです。農業を知らなかつたことが農業を始めた理由

です。まだ小さかつた子供に、僕がその時代に行つた遊びをさせてあげたい、年に何回か泥だらけになつて野山を駆けめぐり回らせたい、という気持ちがもう一つの大きな理由です。僕らが、子供が子供らしく遊べる場所へ連れて行

くしかないのです。それからはずっと秋田へ、田植えと稲刈りには必ず出かけています。「映画祭」も来年20回目を迎えます。

——そのほかに千葉でも田んぼと畑をやつているそうですね。

永島 J.A成田に野球部の仲間がいて話し合い、市民参加型の米作りを目的に苗床作りから田植え、稲刈りまで

やっています。もう13年になります。

——お子さんの反応はどうですか。

永島 最初は田んぼに入るのを嫌がっていましたが、入つてしまえば子供のことです。ただ親が変わつてきました。僕らの年代のお父さんは田んぼに入つた経験があるので、今さら田植えなどしたくないと、子供たちに任せています。ところが子供時代に田んぼに入つたこともなければ、カエルを捕まえたこともないお母さんたちは、子供たちと一緒に喜んでやつてています。

——土の感触を知つてもらうことだけでも、貴重な体験ですよね。

永島 人間も土とともに生きていると



東京・渋谷の宮下公園で

感じてもらうことが必要です。

——その思いを広げる活動の一つが青空市場の設立でしょうか。

永島 僕がこうして話すより、もつと農業を知つてもらうためには直接農家の人に会つてもらうことがいい。そこで何が一番いいか考えた時、市場が楽しそうだ。人と人との親近感を強めるために、定期的に市場を開こうと思いつつて始めました。

——伝えたい農業、生産者と消費者が直接かかわりあうことにより農業が身近になるということでしょうか。

永島 消費者が変わらないと農業も漁業も変わりません。例えば野菜がただ安ければよいという風潮がありますが、やはり適正価格で買ってあげないと農家も食べていけません。市場原理優先の考え方を少し変え、お互いが生活を支えあうように考えたいですね。

——食の安全が言われるようになり、生産者も消費者も少しずつ変わってきたように感じませんか。

永島 まだまだ誰かが何かをやつてくれると思つている。昔、兼業農家が多かつたように兼業サラリーマンを勧めたい。スポーツジムで余った筋肉を農業に使つたら楽しいですよ（笑）。

りでしょうね。

永島 東京湾は豊かです。遠浅の出洲海岸や蘇我の海も、引き潮の時は6kmも沖合に歩いていけました。ワタリガニ、アサリ、ハマグリ、芝エビ、ノリなど海の幸の中で育ちました。子供の頃の良い海を知つてるので、今の東京湾を見ると悲しいですよ。

海自体よりも海の周りが変わってきました。九十九里や外房の海も、コンクリートでつぶされています。それも時には必要かもしれないけど、違うやり方もあるような気がします。

今年も芝山町にある会員制の畑5反歩にサツマ芋、落花生、大豆、ニンジンなどを植え草取りを終えた後、家族連れがいるので蓮沼の海（山武市）に連れて行きました。東京からの転勤族も多く、千葉の海がこんなに楽しいとは思わなかつた、と。まだまだ千葉には宝がいっぱいあるけど、うまく利用しきれていません。宝の持ち腐れになつてているように思います。

——もつたいない感じですか。

永島 今ならまだ戻せるかもしれない。例えば、京葉工業地帯の鉄がこんなに早く別の国に取つて代わられるとは思わなかつたし、製鉄所の跡地をどうするのか。一部でいいですから、ぜひ海を戻してほしいですね。

砂浜に産卵するようです。江戸川を下つてきたアユがお台場で産卵して多摩川を上り、やがて天然アユが多摩川に戻つて来るので。

船橋沖の三番瀬から木更津まで見渡せば岸壁ばかり。人工海浜でもいいから造つてほしいですよね。そうすれば海も浄化され、海の生物も増えていきます。昔のような貝や魚が増え、憩いの場となつて人も集まつてきます。

千葉市のサポーターに任命

——千葉に対する思い入れや愛情がひしひしと伝わってきます。先ごろ千葉市のシティセールスサポートを委嘱されました。これからどんなことをアピールしていきたいですか。

——今後のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

今までアピールしてきているつもりですよ（笑）。もつともつと考えてほしいことは、市民が楽しく暮らせる千葉市にしてほしい。千葉市に生まれ育つて暮らし、子供を育てて良かったと思える町にしてほしい。そのためだつたら僕らがやることもあるかもしれませんので、お手伝いしたい。

このでつかい体を育ててくれたのは東京湾です。千葉は恵まれた土地柄です。仕事をしながら余暇を楽しむ自然環境もあります。どうか兼業漁師、兼業農家、兼業サラリーマンをお勧めしたい。サラリーマン漁師、サラリーマン農家で、ゆとりのある豊かな暮らしを取り戻したいものです。



■Information

- NHK「産地発！食べもの一直線」
日曜 朝6:16～レギュラー
- 10/12(日)東京国際フォーラムにて「青空市場」開催
青空市場HP (<http://www.aozora-ichiba.co.jp/>)
- 永島敏行の青空ブログ
(<http://nagashimatoshiyuki.livedoor.biz/>)
- 株式会社スカイコーポレーション所属 (TEL.03-5545-3311)
<http://www.skycorporation.co.jp>

ゆたかな東京湾がふるさと

——先ほども話に出ましたが、小さい頃の海に対する思い出はたくさんおあ

例えお台場に砂浜が戻つただけで多

書の風景●伊藤左千夫の掛軸 「獨居愛松」

■山武市歴史民俗資料館蔵

挂 軸は縦37cm、横18cm。明治時代の歌人で小説家・伊藤左千夫の筆によるものです。署名の「辛亥十月 左千夫醉筆」は1911（明治44）年のことで、その年10月に本所茅場町（現在の墨田区江東橋3-5-3）の自宅で書かれました。

左千夫は殊のほか松を好み、自宅の庭にも植えていました。その実景を師である正岡子規は1900（明治33）年7月30日号の『ホトトギス』に発表した小説「車上の春光」の中で描いています。「庭にはよろよろとした松が四、五本もあつて下に木賊とくわいが植えてある」と。

晩年の左千夫は経済的な困窮や近親の不幸などが重なり、決して恵まれた余生ではありませんでした。

左千夫の生地、山武市殿台にある同市歴史民俗資料館は改修され、左千夫室「唯真閣」が移築されています。資料館では茅場町時代の茶

室「唯真閣」が移築されています。資料館では平成21年3月29日(日)まで「伊藤左千夫の作品展Ⅱ」が開かれています。

場所／山武市殿台392

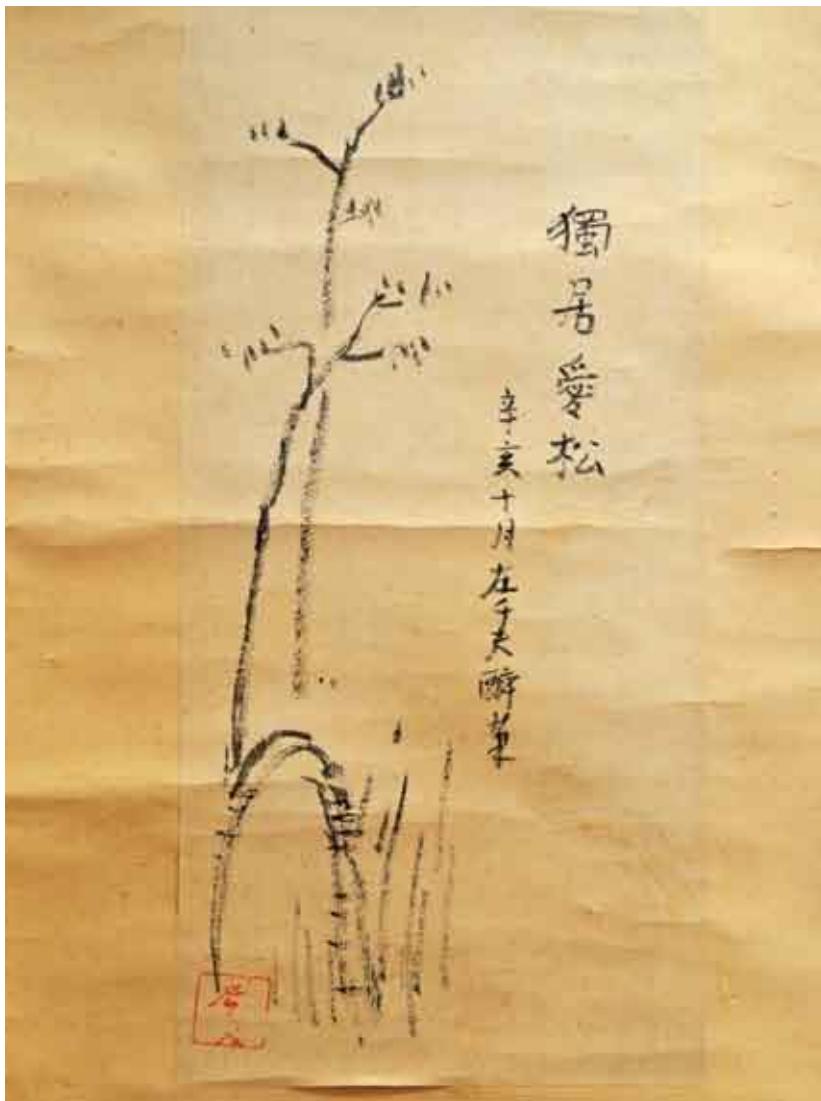
電話／0475-82-2842

開館／午前9時～午後4時30分

休館／月曜日（祝日の時は開館）

祝日の翌日、年末年始

交通／JR成東駅から徒歩15分



今年、茅ぶき屋根をふき替えた左千夫生家

九十九里の風 鰯のつみれ汁

■九十九里町婦人会

つ

みれば、**摘煎**ともいいます。

赤身の魚をすり身にして調理し、手でつみ取りながら丸めたので、この名がつきました。

九十九里沿岸地域では、どの家庭でも作って食べる郷土料理の一つです。場所や家によつては具材や味付けが若干異なり、人参やごぼう、こんにゃく、わけぎなどを使うところもあります。

九十九里町婦人会（清水マサ子会長・会員約四百人）自慢の「鰯のつみれ汁」を紹介します。

同婦人会では毎年、元旦の祈願祭に千五百食分のつみれ汁を会員総出で作り、片貝中央海岸で初日の出の参拝客に振るまっています。

■お問合せ

清水マサ子会長

☎ 0475-76-2565

材料（6人分）

鰯のすり身	300g
みそ	大さじ1
片栗粉（つなぎ）	大さじ1
おろし生姜	大さじ1
酒	少々
出し汁	4カップ
しょう油	大さじ1/2
塩	小さじ1
ミツバまたは白髪長ネギ	適宜

作り方

- 鰯のすり身300gをすり鉢でよくすり、片栗粉、酒、みそ、おろし生姜を加えてよく混ぜます。薄味にしておくことがポイントです。
- 鍋にカップ4杯の出し汁を入れ、煮立ったら①をスプーンで団子状にして鍋に入れます。
- 団子が浮いてきたら塩としょう油で味を付け、その上にミツバまたは白髪長ネギを刻んでのせます。

※鰯のすり身500グラムを作る場合は、約1kgの鰯が必要です。

ふるさと味紀行

井上ひさし（一九三四～）

直木賞を受賞した市川時代、下總国分寺そばに住む



現在の真言宗豊山派下総国分寺

戯

曲作家、小説家として人気を誇る井上ひさしが、下総国分寺に近い市川市国分町二丁目に転居したのは、昭和四十二年十月のこと。三十二歳でした。

NHK総合テレビで高視聴率をマークした連続人形劇「ひよっこりひょうたん島」は、児童文学の山元護久と井上の共作で、昭和三十九年から四十四年まで放映されています。

井上が下総国分寺そばに自宅を初めて構えることができたのは、その放映で安定した収入を得られたことが大きな要因でした。

浅草鳥越のかつら職人内山東太郎の次女・好子と昭和三十六年に結婚し入籍。のちに離婚するまで内山慶を名のっています。転居の五ヶ月前に三女が誕生。三人のお嬢さんに恵まれたことから、健やかな養育を望んで、水と緑の多い高級住宅地、そして永井荷風や幸田露伴など文豪の住んだ市川が選ばれました。また、好子夫人の母上の話ですが、まず好子夫人の姉夫婦が国分寺そばの建売住宅に住み、隣家が売れないで残っていたのを、姉が買って

はどうかと妹に持ちかけ、井上の購入が実現したそうです。

井上は自宅を持つことで、仕事と家庭の分離が可能になり、次々と大きな仕事に着手していきます。転居の翌々年に、「ひよっこりひょうたん島」で日本放送作家協会賞・最優秀番組賞を受賞。初の長編小説『ブンとフン』も出版します。題名の『ブンとフン』とは、「こくぶん」と書き、「こくぶん」と読む地名からついたもので、ナンセンス文学・井上の名声が高まる基となりました。

そして『手鎖心中』で、第六十七回。直木賞受賞の快挙をなし遂げるのも国分寺そばに住んでいた時代のこと。日本レコード大賞童謡賞・斎田喬戯曲賞、岸田戯曲賞、芸術選奨新人賞、小説現代読者賞などの大賞を受賞し、また代表作『吉里吉里人』の連載が開始されたのもこの時代です。次々と発想が湧いた時代でもありました。彼の愛した下総国分寺は、『さそりたち』『鶴喰八十八伝』などにその名が描かれていました。

蔵書が増え、手狭になつた井上は、

中谷順子

文

日本文藝家協会、日本ベンクラブ、日本現代詩人会会員

千葉県詩人クラブ・前会長。『覇氣』主宰

千葉市花見川区在住

●著書

詩集「白熱」「破れ旗」

郷土文学「房総を描いた作家たち③」

評論「現代詩・十人の詩人」

共著「房総学検定」

情報 capsule

昭和30年代の町並み再現

回想療法に取り組む総泉病院(千葉市)

楽しかった昔のことと思い出することで高齢者の心と脳に刺激を与える治療に役立てる——。そのための懐かしい町並み「思い出ミュージアム」が入院・療養型の総泉病院1階ロビー奥に設けられ話題を呼んでいます。この町並みは高野喜久雄名誉院長の発案によって作られた「思い出療法」の一環で、お年寄りのコミュニケーションの場として、特に認知症患者の家族団らんの場として利用し、古きよき時代を思い出すきっかけにしてもらうためのものです。杉の板塀に囲まれた路地裏には駄菓子屋や貸本屋、しゃれたギャラリー、簡易郵便局、おでんの屋台、アイスキャンデー売りの自転車など、40年前の思い出と、手に触れて嬉しい道具がぎっしり詰まっています。

data

所在地／千葉市若葉区更科町2592
交 通／千葉都市モノレール「千城台駅」より「さらしなバス」
または「あまごバス」で総泉病院下車
お問合せ／☎043-237-5001
<http://www.sousen.seikei-kai.or.jp>



公園で一緒に体操や歌遊び

保育士による出前保育(我孫子市)

保育士やつどいの広場の相談員が公園に出向き、乳児に体操や歌遊びなどを教えるながら一緒に遊ぶ「出前保育」が好評です。我孫子市保育課が家で子育てをしているお母さんたちを応援し親子の交流をより一層深めようと始めたもので、市内の公園「るんるんパーク」(市内9か所)を毎月2、3か所ずつ交替で回って実施しています。この試みは平成19年10月から月1回、アビスタ生涯学習センター やつどいの広場など公共施設で開いている子育て支援の一環で、担当課では「今後もさらに内容を充実させていきたい」と語っています。



写真提供：我孫子市保育課

data

事前の申し込みは不要。参加費は無料。
日程や場所などのお問い合わせは、市保育課子育て担当
☎04-7185-1111 内線572

平成の名水に「生きた水・久留里」

駅周辺の井戸5か所が一般開放(君津市)



写真提供：君津市商工観光課

城下町・君津市久留里の地下水が県内で唯一「平成の名水百選」に選ばれ、環境省から認定書が交付されました。1985年選定の「名水百選」に次ぐもので、今年7月に行われた北海道洞爺湖サミットにちなんで選ばれました。水は、上総掘りと呼ばれる伝統技法によって掘られた井戸から自噴する地下水で、飲料水を中心に約200か所が確認されています。そのうち久留里駅周辺の井戸5か所が一般開放され、誰でも自由にくむことができます。房総丘陵の地下約400～600mから噴出している水は、土壤菌などを含んだ「生きた水」で、地元では市観光協会を中心に水質検査を定期的に実施するなど、安全安心な水としての保全活動に力を入れています。

data

所在地／君津市久留里市場
交 通／JR久留里線（木更津駅乗り換え）
久留里駅下車、徒歩5分
お問合せ／君津市観光協会上総支部 ☎0439-27-3111
<http://www6.ocn.ne.jp/~kimikan/>

第1号に木質プラスチック製時計

県の地域資源ブランド化事業にも期待(千葉市)

県は昨年から国の委託事業として進めていた地域資源活用プロジェクトの第1号に家庭用温度計メーカー、クレセル(千葉事業所・山武市)が開発したバイオマス・プラスチック製の湿度計に時計の機能を備えた新商品を選定。同計器は、外枠に山武杉の間伐材や樹皮の木粉に汎用樹脂を用いたことで評価され、すでに東京の大型小売店などで販売されています。県はさらに地域経済を活性化させ、県内の産業資源217品目を活用した地域資源のブランド化を図るため、中小企業者からブランド化の企画提案を募集。今回は締め切られましたが、今後も年に2、3回のペースで新製品を発表していく予定です。



写真提供：㈱クレセル

data

お問合せ／県産業振興課新産業創造室 ☎043-223-2798
http://www.pref.chiba.lg.jp/syozoku/f_sanshin/index.html
㈱クレセル(千葉事業所 山武市埴谷 ☎0475-88-3870)



写真提供：海の博物館

来年に開館10周年記念展示

全国でも珍しい「海の博物館」(勝浦市)

県立中央博物館分館の「海の博物館」(布留川毅分館長)が来年3月に開館10周年を迎え、平成21年度内に記念展示を予定しています。同館は全国でも珍しい海の生き物を題材にした自然誌博物館で、開館以来約153万人(今年7月末日現在)が入場しています。展示は房総半島の海にいる魚や鳥の標本やはく製、南房総にすむ魚の生息状況が分かる景観模型のほか、週末には研究員の案内で海の生き物を探す観察会や講座も開いています。記念展示では、これまでに収集した貴重な資料や調査研究活動の成果を標本や写真、動画などを使って紹介する予定。隣接の勝浦海中展望塔と併せ南房総の自然・観光拠点として人気を集めています。

data

所在地／勝浦市吉尾123
交通／JR鶴原駅から徒歩15分
入館料／一般200円、高・大学生は100円。中学生以下、65歳以上は無料
休館日／月曜(祝日の場合は翌日)、年末年始
お問合せ／☎0470-76-1133 <http://www.chiba-muse.or.jp/UMIHAKU/>

茅ぶき屋根のふき替え25年ぶり

国重文・西願寺阿弥陀堂(市原市)

平蔵の光堂と呼ばれる同阿弥陀堂の茅ぶき屋根が、このほどふき替えを完了。老朽化による全面ふき替えは実に25年ぶりです。堂は室町時代の1495(明応4)年、当時平蔵城の城主であった平将経が鬼門守護のため、鎌倉の大工二郎三郎を招いて建立したといわれています。昭和2年解体修理の際に発見された墨書きによって、その事実が明らかにされています。正面、側面3間、屋根は茅ぶきの寄棟造り。扇のように並ぶ垂木、角のように張り出した尾垂木など、構造は禅宗様の建造物の中でも本格的な様式をそなえた美しい仏堂です。使われた茅は南房総市、匝瑳市産です。



写真提供：市原市ふるさと文化課

data

所在地／市原市平蔵1360。国道297号沿い
交通／小湊鉄道上総牛久駅から大多喜行バスあみだ畑下車徒歩2分
駐車場／あり
お問合せ／市原市教育委員会 ☎0436-23-9853

情報capsule

特集 歴史の舞台を行く

日米修好通商条約一五〇〇年

老中堀田正睦と城下町・佐倉



堀田正睦公写真（堀田正典氏所蔵）

1825（文政8）年に5代藩主となり、佐倉藩内の改革や藩士の学問や武芸を奨励。特に西洋の学問に理解があり開明的であった正睦

今は、安政5年（一八五八）に日米修好通商条約が結ばれて一五〇〇年となる年です。アメリカの総領事タウンゼント・ハリスと外交交渉を行い、日本を名実ともに開国に導いた人物が、幕府の老中を務めていた佐倉藩主堀田正睦でした。ここでは正睦を中心、堀田氏の城下町であった佐倉について紹介します。



堀田正盛、佐倉藩主となる

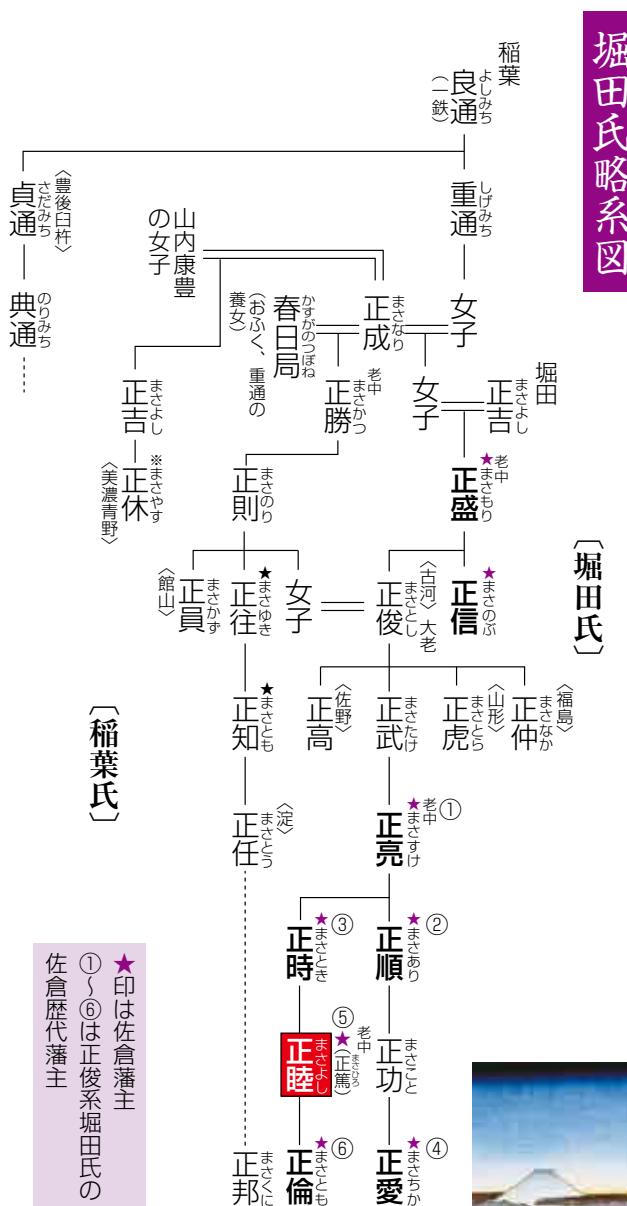
佐倉城は、徳川秀忠・家光を支え、大老となつた土井利勝が築いた城です。戦前には陸軍の連隊が置かれ、現在は国立歴史民俗博物館があります。

利勝は古河（茨城県）に移され、寛永19年（一六四二）、堀田正盛が十一万石で佐倉に封ぜられました。

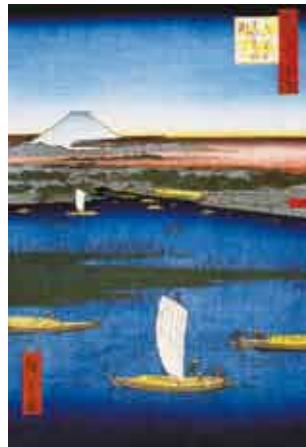
堀田氏は尾張の出で織田氏に仕えましたが、正吉が稻葉正成の娘を妻とした関係で、徳川氏に重く用いられました。正成の後妻が、二代将軍家光の乳母として知られる春日局だったからです（系図参照）。正吉の子の正盛は、家光の側近として権勢を振るいました。

堀田正信の改易と佐倉惣五郎騒動

慶安4年（一六五一）、家光が没すると正盛は殉死し、子の正信が跡を継ぎました。しかし、万治3年（一六六〇）には幕政を批判して無断で佐倉に帰ってしまったのです。幕府は正信を改易としました。世に「義民」として有名な佐倉惣五郎（木内宗吾）の直訴事件は、正信が藩主だった時に起きたと言われています。



堀田正睦公銅像（佐倉ライオンズクラブが寄贈）
佐倉城址公園二の丸跡入口に建てられた正睦公



佐倉城大手門（菅谷義範氏所蔵）
現在の佐倉中学校正門付近にあった門。明治5年頃阿部忠忱撮影



明治26年の旧堀田邸（「日本博覧図」千葉県初編 千葉県立中央図書館所蔵）
最後の佐倉藩主正隆の邸宅。堀田家の農事試験場を含めると広さは約3万坪（約99,180m²）

佐倉城内郭イメージ画
荻原憲彦氏著 佐倉商工會議所蔵発行パンフレット所収。
城郭西南端に位置した三層天守の本丸が描かれています。



の一途をたどり、農村も疲弊していました。このような危機的な状況のもと、天保4年（一八三三）正睦は改革を宣言しました。

正睦は、経済的に困窮した藩士たちを救済する一方、「衣服の制」「飲食の制」などを定めて藩士の生活を統制し儉約に努めさせました。また「文武芸術の制」を定めて学問と武芸を奨励し、有能な者を取り立てました。こうして退廃していた士風を刷新したのです。

また、農業を振興し、子育方役所を置いて間引きを禁止し、領内に種痘を実施し、老齢者を褒賞するなどの民政を行いました。

蘭癖正睦と藩校成徳書院

ふたたび佐倉藩主となつた堀田氏

その後、佐倉藩主はめまぐるしく変わりましたが、延宝3年（一七四七）に山形から堀田正亮が十一万石で入封しました。正亮は、正信の弟で五代將軍綱吉のもとで大老となつた正俊の子孫ですが、「系図参照」、この正俊系の堀田家が明治維新まで続きます。

正睦は従来の藩校を拡充して「成徳書院」と改めました。正睦は鎖国体制のなかで広く海外に目を向け、蘭学に関心を持ち、保守的な人たちからは「蘭癖」と非難されるほどでした。このため、成徳書院に蘭学や英学を取り入れ、多彩な人材を育成しました。

成徳書院は県立佐倉高校となつていますが、同校には孔子像、「ハルマ和解」などの蘭和辞書・蘭書などが残されています（県指定文化財「鹿山文庫関係資料」）。

堀田正睦の登場と天保の改革

正亮の後、堀田家は正順・正時・正愛と続きました。しかし、財政は窮乏

西洋医学の興隆と順天堂

正睦は蘭方医の佐藤泰然を佐倉に招



佐倉城址（馬出）

国立歴史民俗博物館のある椎木曲輪（囲い）から本丸へ通じる椎木門を守るための施設。土壘や空堀などの遺構も残されています

旧堀田邸



堀田正睦の墓所（甚大寺）

初代藩主正亮が山形から佐倉へ移った際、甚大寺も
佐倉へ移されました。正後、正倫の墓所。県指定史跡



むらさきなそごうまる
紫裾濃胴丸（麻賀多神社所蔵）
4代藩主正愛所用の鎧。県指定工芸品

ハリス銅像



明治期の上級和風住宅の特色を示し、眼下に高崎川や下総台地を借景とした庭園は県指定名勝

きました。泰然が開いた蘭医学塾兼診療所が順天堂です。泰然の子の松本良順と養子の佐藤尚中は、長崎でオランダの軍医ポンペから最新の医学を学びました。順天堂は高度な外科手術と優れた教育で知られ、医学を志す若者が全国から集まりました。

明治になると、尚中は東京大学医学部の前身である大学東校を主宰し、尚中の養子進はドイツに留学してドイツ医学を日本に導入しました。

現在も佐倉順天堂記念館が当時の姿を残していますが、尚中が東京に開いた医学塾順天堂は順天堂大学の前身です。佐倉の順天堂は尚中の養子舜海が継ぎ、今も続いています。

軍制の改革

黒船の来航に代表される西洋列強の圧力に対抗するためには、近代的な軍備が必要でした。蘭学者で佐久間象山の弟子であった木村軍太郎を中心に戸制を改革し、佐倉藩の軍隊は歩兵・砲兵・騎兵の三軍からなる洋式軍備に改められました。

老中となる

正睦は、幕府の天保改革を推し進めていた水野忠邦のもとで老中に就任しましたが、やがて老中を退きました。しかし、安政2年（一八五五）には老中に再任され、阿部正弘に代わって老

中首座となりました。翌年には外国御用取扱も命ぜられたのです。

● ハリスと日米交渉を進める

正睦は岩瀬忠震ら有能な幕臣を登用し、通商条約を要望したアメリカ総領事ハリスと粘り強く交渉を進めました。正睦は尊皇攘夷の嵐が吹き荒れるなか、開国して進んだ技術や文化を取り入れ、諸外国と貿易して国を豊かにすること



佐倉順天堂記念館
佐藤泰然が藩主正睦によって佐倉に招かれ、1843（天保14）年に開設した蘭方医学の医院兼蘭学塾。県指定史跡

以外に、日本の独立を保つ方法はないという、信念を持っていました。安政5年に日米修好通商条約の案がまとまり、朝廷の許可を求めるため上洛しましたが、攘夷論者であった孝明天皇の許しは得られませんでした。

● 篤姫と正睦

正睦は「正篤」と名乗っていました。安政3年（一八五六年）将軍家定のもとに薩摩の島津斎彬の養女篤姫（天璋院）が輿入れすると、将軍の御台所と同じ「篤」の字を用いるのは畏れ多いとして、名を正睦と改めたのです。

● 井伊直弼の登場と老中罷免

大老に就任した井伊直弼は、勅許を得られないまま条約に調印し、將軍繼嗣をめぐって直弼と対立した正睦は、老中を罷免されました。幼少の正徳に家督を譲って隠居した正睦は、外交で不届きがあつたという理由で、蟄居を命じられました。正睦は元治元年（一八六四年）、佐倉城内の松山御殿で没し、甚大寺に葬られました。墓石には「文明公」と刻まれています。

● 開国の宰相として

正睦の政治家としての生涯は恵まれたものとは言えませんが、幕府伝來の法といわれた鎖国に終止符を打ち、日本を国際社会の一員としてスタートさ

せた功績は大きいものがあります。正睦の名は、藩政改革を達成した名君として、幕末史に輝いています。

して、日米修好通商条約に尽力した老中として、幕末史に輝いています。



佐倉高等学校記念館

2代藩主正順が城下の宮小路（麻賀多神社前）に創設し、正睦が拡充した藩校「成徳書院」の流れをくむ県立佐倉高等学校。孔子像や扁額類、「ハルマ和解」などの辞書類や蘭書が残されています。記念館は国登録有形文化財

外山信司・文

県立浦安南高等学校教諭
佐倉市史編さん委員

